

2006.12

あつかし 荘だより

まごころ・ふれあい・思いやり

あつかし荘は、利用者の主体性と自主性を尊重し、人間としての尊厳に根ざした介護を進めます。

あつかし荘は、家族・地域社会との連携を密にし、あたたかい家庭的環境を築きます。

リレー エッセイ



菊池明央
主任事務員

僕自身あつかし荘に異動してから8年が過ぎました。当初、新設の梁川ホームからあつかし荘に来た際には建物や設備の違いに驚きを感じた事思い出されます。

現在、あつかし荘はグループケアを取り入れ利用者の皆様のサービス向上に努めております。また、地域介護教室を随時開催し地域への働きかけを行っております。

あつかし荘職員の一員として、利用者の皆様、家族の皆様、地域の皆様と一緒にアットホームな施設を目指して頑張っていきたいと思っております。

■これからのおもな行事予定

- 12月
- 19日 消防訓練
 - 21日 クリスマス会(梁川保育園園児慰問)
テーブルバイキング
 - 25日 信達福祉会評議員会
 - 26日 職員会議
 - 27日 信達福祉会理事会
 - 1月11日 新年会(津軽三味線みどり会慰問)
テーブルバイキング
 - 15日 ホーム内喫茶
おやつバイキング
 - 18日 グループレク
 - 22日 認知症介護学習会
 - 25日 阿津賀志食堂



元気で長生きしてください あつかし荘で敬老会

伊達崎婦人会の舞踊、津軽三味線みどり会の演奏がお祝い

9月17日(日)あつかし荘敬老会が行われました。小野園長のあいさつに続き、喜寿、米寿、そして90歳以上の利用者の紹介があり、続いて林王喜久男桑折町長からお祝いの言葉並びに敬老祝い金、賀寿の贈呈がありました。

次に、利用者のご家族からお祝いのことばをいただき、小野園長からは利用者一人ひとりに花束が贈られました。その後、利用者代表の御礼のごあいさつがありました。

続いてアトラクションでは、はじめに職員であつかし荘の歌「あつかしの風景」を歌い皆さんに聞いていただき



ました。その後、桑折町婦人会による余興、津軽三味線「みどり会」による演奏を披露していただき場を盛り立て一緒に祝っていただきました。

会食では、稲荷寿司や三色巻き寿司、コロッケ、煮込みおでん、サラダ、フルーツ等でテーブルをいっぱいにし、利用者のご家族と一緒に食事を楽しみました。そして利用者の皆様のご長寿のご健康をお祈りいたしました。

ご参加の家族の皆様、そして一緒に祝っていただきました桑折町婦人会、津軽三味線「みどり会」の皆様、本当にありがとうございました。



快適な生活を送っていただくために 排泄ケア

あつかし荘の取り組み③排泄ケア委員会

- ①グループケア改善委員会
- ②サービス向上委員会
- ③排泄ケア委員会
- ④リスクマネジメント委員会

あつかし荘の委員会ケアの取り組みを順にご紹介いたします。3回目は排泄ケア委員会です。

加齢とともに何らかの病気や障害によって排泄困難となるのはやむを得ないとはいえ残念なことです。排泄は食事と同様、生活の基本です。あつかし荘では排泄ケア委員会を中心に、利用者の皆さんが快適に安心して生活していただけるよう、一人ひとりに適したよりよい排泄ケア、尊厳を損なわない支援に日々取り組んでいます。

●何よりプライバシーに配慮

まず、排泄介助においては、第一にプライバシーに配慮しながら行うことを心がけ、常に清潔を保持し、感染予防に努めています。オムツ交換は以前は定時で行っていましたが、現在は個別ケアを重視して随時行っています。



▲ホーム内喫茶のようす

次に、便秘予防としては、

- ①食物繊維を多く摂る(栄養士と連携を取りながら、個別にあった食事を提供しております)。
- ②水分の摂取に心がける(看護師と連携を図り、利用者に合わせて水分補給の摂取に努めております)。
- ③軽度な運動とリハビリ訓練(毎日の日課に組み入れ、個別でリハビリ訓練)などを行ってまいります。

また、排泄介助の質を確保するためには、

- ①適切な水分摂取と定期的な排泄のチェック
- ②必要に応じてのトイレ誘導
- ③排泄リズムの把握
- ④プライバシーの保護、およびプライドを傷つけないための配慮、などが必要です。

●皮膚状態変化の早期発見

さらにグループごとに利用者の状態の観察を行うとともに皮膚状態変化の早期発見に努め、床ずれを防止しております。床ずれ防止にはその他エアーマットの使用、離床の確保等、職員間

で常に情報を共有して行っています。

●自力での排泄を目標に

高齢者の排泄障害はさまざまですが、やむなく薬剤の影響で起こることもあります(例:尿失禁、排尿困難、便秘、下痢等)。排泄が問題なくできるということは、判断力、運動機能、膀胱、尿道機能、直腸、肛門機能が正常に働く必要がありますから、排泄障害はこれらが働かなくなると起こるといえます。

今後は利用者の健康状態に応じて、個別リハビリを取り入れながら、自力での排泄ができるよう、またオムツ使用者に対しては可能な限りオムツ外しに取り組み、床ずれ防止には各職種と連携を図って「床ずれは作らない」を目標に取り組んでいきます。

●「気づき」を大事に援助

あつかし荘は生活の場です。皆さんに快適な生活を送っていただくために、常に「気づき」を大事にして利用者の方の援助を行ってまいります。(介護士・松浦啓子)

あつかし荘●ケア情報 plus

認知症ケアの取り組み

平成17年12月より信達福祉会3施設(梁川ホーム、川俣ホーム、あつかし荘)では、職員一人ひとりが、認知症介護の知識や技術を身につけて自分を磨くことによって、施設等を利用する高齢者の生活が豊かで潤いのあるものとなるようにという視点で、認知症介護の質の向上をめざし



▲懐かしい道具で飾られた玄関

た取り組みをすすめております。

スタッフは、介護士の岡崎照子、千葉弘美、佐藤進也、看護師の佐藤奈美子に、石塚勝弥・法人認知症介護担当者を加えての5名を中心に行っています。

これまで認知症に関する全職員の勉強会を5回、勉強会前後のアンケートを実施しました。アンケートでは、勉強会を行う前は漠然とした表現にとどまっていたものが、勉強会の後では、「自分が受けた介護」というような主体的な構えに変わってきました。職員の意識の変化は、東・南・北の各グループ、看護師グループによる認知症介護の目標の構築へとつながっています。それらをふまえ10月からは新たに環境づくりに取り組んでいます。これから増えていくであろう認知症高



▲ホールに設けられたくつろぎの空間

齢者に対しての理解を深めるとともに、勉強してきたことを生かした介護ができるよう全員で心がけてまいります。ご家族の皆さんなどで、わからないこと、困っていることがある方は、職員に気軽に声をかけてください。お待ちしております。

(介護士・千葉弘美)

最期を看取ってもらってよかったといわれる施設に…佐藤豊治委員 メモでもいいから記録を残しておくことが大切…高橋節子委員

法人苦情解決委員会第三者委員の佐藤豊治委員（国見町）、高橋節子委員（桑折町）のお二人にあつかし荘をご覧いただき、お気づきの点をお話していただきました。

佐藤 今日、洗濯の現場を初めて見せていただきましたが、職員の皆さんですべて洗濯されていると聞いて驚きました。

高橋 洗濯物たたみは主に利用者さんとボランティアさんをお願いされているということでしたが、利用者さんに「疲れた」といわれると困りますね。

佐藤 利用者さんのリハビリや生きがいにもなるのでとてもよいことだと思いますが、乾いた物を利用者さんごとに振り分けるのは大変ですね。

高橋 職員の皆さんに負担がかかりすぎるといへんなので、シルバーさんに委託したり、ボランティアさんなどに上手にお願いするとよいのではないのでしょうか。

今後はボランティアの受入メニューを整備して、いろいろな方に来ていただこうと思っています

佐藤 そうですね。お願いされても何をやるのか不安になりますから。

高橋 なかでもお話し相手は難しいですよ。時々デイサービスに行きますが、お風呂に入るまでの時間、どんな話をしたらいいのかわかりません。話しかけるとブイと横を向かれてしまう方もいらっしゃる。

佐藤 先日はショートステイの方でしたが、地域のことなどで話が弾み、10分くらい話してしまいました。こうして話が合う関係にならないと苦情をうかがう立場にはなれません。家族との懇談などもやる必要がありますね。

家族懇談会やアンケートでご家族のご意見を聞いています。何でも言える関係づくりが大切だと思っています

佐藤 職員の方々には一生懸命やっていたので、あつかし荘の雰囲気はたいへんよくなってきたと思います。こちらから御礼を申し上げたいくらいです。

最近、介護サービス情報の公表が義務づけられるなど、サービスの質とともに記録が重視されるようになりました

佐藤 記録は重労働です。書くことは大変なことです。これはやっていたかなければならない義務なのです。記録を見て初めて次につなげていくことができます。話だけでは忘れてしまいますからね。

高橋 言った、言わない。やった、やらないのことで問題になることがあります。メモでも何でもいいから記録しておくことが大切です。佐藤 それから別の話ですが、誰にでもプライドがありますから、職員の言葉遣いは注意してほしいと思いま

す。言葉は目に見えないので、思いのほかおろそかにしがちです。

高橋 利用者さんを「〇〇ちゃん」と呼ぶ施設があるようですが、子どもにみられたような感じがして違和感があります。親しみを込めているんだと思いますがそうではありません。目上の人に対して、ちゃんづけはしません。

佐藤 「〇〇ちゃん」と言われて、一日じゅう面白くない人もいますでしょう。孫くらいの年代の人からそう言われてはしょうがない。

それと、職員は忙しいから利用者さんを待たせてしまう場合もありますが、そのときは理由を告げて待つてもらいましょう。待っているほうは1分だって長い。何かひとこと「こういうわけで・・・」と説明すればいいのですがね。

過日、利用者の人権、プライバシーをどう守るかという指摘がありました

佐藤 それは当然のこと、自分がその立場に立てばすぐにわかることです。職員一人ひとりの心構え次第で改善できます。

高橋 新しい施設も次々できていますが、必ずしも新しいからすべてが良いというわけではありませんね。

佐藤 最期を看取ってもらえて良かったと言われるような施設になれば最高です。家に居るのと同じような最期を看取ってもらえたら、その人の一生は幸せになれる。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後ともご指導よろしくお願いします。



高橋節子委員



佐藤豊治委員



あつかし荘の明日を考える

あつかし荘の介護は将来どうあるべきか！ 若手職員による座談会を開きました。時あたかも本間郁子先生（特養ホームを良くする市民の会理事長）による研修会の直後ということもあって、先生の問題提起に対する感想も含めて熱の入った討論となりました。

◆出席者

鈴木 千春・介護士（南グループ）
齋藤 品夫・介護士（北グループ）
大條 信人・介護士（東グループ）
近藤美和子・看護師

◆司会

高橋 睦子・主任介護士

高橋 お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今日はあつかし荘がめざす介護とはどんなものなのか、普段の言葉でお話いただきたいと思います。まず、先日の本間先生のお話で印象的なことはどんなことでしたか。

●家庭的な雰囲気をつくる

近藤 「施設は、病院とは違う。家庭だよ」ということを強調されたのがズキッとしました。病院的な造りも影響していると思うんですが。

齋藤 家庭的な雰囲気づくりということですね。

高橋 設備面では現在のところ仕方ない面もありますが、そこで、どうやっていったらいいか考えてみましたか。



齋藤品夫・介護士

近藤 ベッドでいうならカバーを掛けてみるとかすると、見た目が変わるかもしれません。せっかく生活の場で最期を迎えたいと思っておられるのに、静養室を利用されると医療器具に囲まれ病院になってしまいます。

鈴木 「家庭的」にしたいと思って廊下などに家具などを置きたいのですが、利用者さんのリスクや緊急時などを考えるとなかなかできませんね。

齋藤 消防法などとの兼ね合いも気になります。シンプルなのは一番良いと思いますが。

近藤 施設によってはお金をかけて改善しているところもあります。

大條 何をやるにもある程度はお金をかけないと次に進めないから、覚悟を決めて考えていく必要があると思いま

す。本間先生のお話では、ハード面は難しいことであっても、部分部分を改善しやっていって欲しいと言っていました。つまり、ただ単にお金をかけてやるというのではなく、ハードにとらわれずに施設の中で努力できることはあるでしょう、という問いかけだったのではないのでしょうか。

●客観的にみる大切さ

高橋 それでは、あつかし荘では何ができるか考えてみましたか。

大條 私は最近、働き出したころに見えていた「景色」がだんだん見えなくなっていました。でも、薄くなっていた「景色」をもう一度見させてもらったような感じがします。私が常に思うことは、客観的にみられることはしっかりしようということです。ご家族の目からみたらどう見えるかなど、極力いろいろグループで話し合ったりしています。

高橋 そうですね。お金をかけなくても改善できる場所もあると思いました。ご家族の方もいろいろな意見をくださるとよいと思います。

鈴木 ご家族と意見交換をするといいいのではないのでしょうか。お手紙などでご意見を伺ってもよいと思います。私たちは、毎日がこれ当たり前と慣れてしまっている面があると思

います。客観的に見ることは重要ですね。

高橋 客観的に見ることは重要ですね。

大條 人員的に無理があるとすれば、地域のボランティアさんの協力を頼り

たいと思うんです。地域に開かれた施設とするために、地域からボランティアさんに入ってもらうよう力を入れていくのはどうでしょう。外部の方が入ることによって職員も刺激されるかも知れません。

最近、たまたまテレビで見たんですが、千人のボランティアさんが居る施設がありました。ボランティアさんは利用者さんと近い年齢の方が多く、洗濯物たたみや車いす押しなどをお願いしているようでした。テレビを通してですが、利用者さんの楽しそうな表情が伺えたので、私たちとは年齢差があるから、年齢が近い人たちにより親しみがわくのではないかと思います。

●ボランティアさんとの良い関係づくり

高橋 昔からボランティアさんに入ってもらいたいという話がありましたね。

鈴木 婦人会さんとか、いらっしゃる団体の方々は増えていますね。利用者さんのお化粧などもしてくださるとありがたいです。

高橋 ボランティアさんが来なくなるようなボランティアの内容をつくらないといけませんね。

大條 他の施設では、ボランティアさんと職員と一緒に動いたりしています。そういう関係づくりが大事だと思います。

近藤 ボランティアさん自身の楽しみになるような内容だと良いと思います。昼ごはんと一緒に食べるとか。

高橋 受け入れ態勢も見直していかなければなりませんね。

近藤 お手伝いをしたいと思う方はたくさんいると思うのですが、玄関が入りやすい雰囲気になっていないのかも知れませんね。



鈴木千春・介護士

●あつかし荘を地域に開放

高橋 地域に開かれた施設にするにはどんなことを進めたらいいでしょう。

近藤 趣味の教室なども開いても良いんじゃないですか。花のアレンジメントとかも面白いと思います。場所を提供して、利用者さんにも一緒に



近藤美和子・看護師

楽しんでいただくんです。

鈴木 以前、研修に行ったところで、地域の子供が遊びにくる施設がありました。月1回おもちゃの病院などもひらいていました。面会の方のお子さんなどが遊べるコーナーや喫茶コーナーもありました。

近藤 一般の方々が入りやすいような雰囲気をつくらなければなりませんね。

鈴木 ただ、食堂などを開放してもいいとは思いますが、利用者さんに不安感を与えてしまうことも予想されますし、来る人が気になることもあるでしょう。普段の生活の中で徐々に開放していきたいですね。

高橋 現実的にはいろいろな体制の整備が必要ですね。

鈴木 来やすい施設とはどういう施設なのでしょうね。たとえば、いま来られているボランティアさんに聞いてはどうでしょうか。行き届かない点は指摘してほしいですね。

高橋 掃除や洗濯物など、時間でこなさなければならないものもあります。一部を委託することも考えられますがどうでしょう。

鈴木 毎日、介護士がやっている洗濯や洗濯物たたみなどを頼めたら助かりますね。

●利用する立場になって

高橋 これからどんなあつかし荘をつくっていきたく思いますか。

齋藤 小さなことから改善していきたく思います。できるところからみん

なで話し合いをして、少しずつすすめていきたいと思います。

鈴木 私は、自分が利用者になったときのことを考えて介護にあたっていきたいと思います。

近藤 地域の人が自然に入ってこれるような施設づくりをしたいです。外の人が入ってくればこのへんを改善しようという職員の意識も芽生えます。

●実習生受け入れはあつかし荘の下地づくり

大條 地域に開かれた施設をつくるためには、地域での評判が大事です。ボランティアさんや学生さんへの対応がそれにつな

がっているんだと思うんです。私が実習に行った経験からいうと、職員は個人個人の学生に対して教える義務があるんですね。仕事を



大條信人・介護士

教えるにあたっては、介護だけでなく、その他の役割も教えなければなりません。担当さんが決まっています。その人について実習する施設や、最後に反省会を開いてくれるところもありました。そんなところから評判が広がるし、またそれは施設の下地づくりとしてとても大切なことだと思うんです。もちろん学生に教えるためのマニュアルも必要だし、職員が学生に関ることのできる環境も整えなければなりません。

高橋 誰がついても同じレベルで教えてあげなくちゃいけないですね。

鈴木 どこまで教えたかとか、段階を踏まえて終わりまでわかるように教えることも大切です。

大條 学生さんは、教科書から抜き取ったような質問も多いと思うんです。それに対して職員がうまく答えられない状況も出てくるかも知れませんが、改めて勉強することも職員のためになります。

鈴木 職員さんの対応がすばらしい施設もありますよね。

●今に満足してはいけない

高橋 20年前、試行錯誤で自分たちの介護の標準をつくってきました。これからは老人福祉もきめ細かに変えていく時代です。グループケアもまだ個別ケアには届いていませんし、別の方法もありそうな気がします。今は目標に向かって途中で、ここで満足したのではだめなんです。

鈴木 たとえばいくらでもボランティアさんやパートさんなどをお願いできるのであれば、もっと利用者さんとふれ合える時間をもてるような気がします。

高橋 グループケアを始めるときも、時間が空いたらグループで利用者さんとの時間が持てるかと思いましたが、なかなかそうなっていません。利用者さんと一緒にお話しして、一緒に楽しみたいんです。本間先生に働いていて楽しいですかと聞かれて、利用者さんを楽しませていないなと思いました。

●若い職員の疑問を大事に

高橋 何かをするときに、入って間もない職員や若い職員が疑問に思う点を大事にしたいと思います。彼らは客観的にみています。私たちは慣れてしまっている点がたくさんありますし、意識もマンネリ化してしまっているのではと思います。



高橋睦子・主任介護士

近藤 私も最初の気持ちを忘れかけているなと感じるときがあります。

齋藤 職員どうしてお互いに遠慮してしまっていることもありますね。

高橋 ボランティアさんや学生さんへの対応もあらためていけたら、評判はもとより施設自体が良くなっていくと思われるので、皆さんでぜひ実行していきましょう。

今日は貴重な意見をお聞かせいただきありがとうございました。



鈴木良司・支配人

10月25日、あつかし荘において、東北自動車国見サービスエリア（下り線）の名鉄レストランによるボランティアレストランが開かれました。毎年、利用者さんが心待ちにしているもので、この日は白石うーめんと五目ご飯、デザートが振舞われました。

名鉄レストランのサービスに学ぶ

高速道路のサービスエリアだけにとどまらず、積極的な地域交流事業を展開している国見名鉄レストラン取締役支配人の鈴木良司さんに、名鉄レストランのサービスについてお聞きしました。

～はじめに名鉄さんの企業理念を教えてください。

名鉄レストランの企業理念は「地域密着」で、みんなで幸せになろうという方針です。実際には創立5周年を記念して、地元でお世話になった方たちに還元しようというような流れでそうやってきたんですね。たまたま地域でお付き合いのあったところがあれば、最初は試験的に始めたのですが、あつかし荘さんで喜んで受け入れていただけたので、毎年継続していくかたちとなり4回目になりました。



近年は地域の方々ともあまり交流がなくなってきましたが、歴史の勉強会は4年前から、民話のお話を聞く会は今年2回目です。皆さんがずいぶん楽しみにされるようになりました。

～接客や言葉遣い、マナーなどについてはどう取り組まれていますか？

私たちのマニュアルは簡単なものですが、基本的な接客用語8つを、出勤したときに大きな声で唱えることにしています。発声練習と意識づけをして、日常と仕事との切り替えをし業務に当たってもらい



ます。月1回コンサルタントの先生から2時間くらいかけて指摘していただき、指摘を受けたところを直していきます。接客の基本は一緒で、あとは個人のパーソナリティです。年齢や生活経験を生かした接客や、一言お申し添えることで普段にない接客と感じていただける方も多いようです。

～お店はたえず第三者の目にさらされていて、緊張の連続ですね。

地域の目にさらされることは大事なことです。困り込んでしまっただけでそこしか見えないことは怖いこと。これでいいんだということになってしまいますから。

～建物の古さ、新しさはサービスにも影響すると思いませんか？

ハード面は最初はうきうきしますがすぐ慣れてしまいます。何が大切かという店舗でも清潔感です。実際に清潔であるかどうかということに加えて、あとは働いている方たちの清潔感です。お客さまが気持ちよくなること。それがないとどんなきれいなホテルでも、レストランでも、がさつだということになります。あまりお客さんを大事にみていないのです。

～さいごに、従業員の皆さんに、お客様と接する際に一番気をつけなくてはならないことは何だかご指導されていますか？

いま必ずやることは、われわれ商売させていただいていますのでレシートを発行しますが、そのときに一言、「ありがとうございます」とか「気をつけてお越しく



ださい」「またお待ちしております」とか言葉を添えるということです。自分たちが発行したレシートは名刺ですし領収書ですから、商品の保証を裏付けるものです。お客様に安心してお金を払っていただける店でありなさい。というのが、新しい民営化された道路会社との基本方針なんです。それを守りながら、あとは、気持ちよく旅行を続けていただけるようお送りすることです。そこで気分を害されてはのちのちの旅行が台無しになってしまいます。また来たときにお立ち寄りいただけるような気持ちになっていただくことでしょうかね。気持ちの部分ですね。

私たちの仕事は、知恵を絞ってお客様から気持ちよくお金をだしていただくことです。あくまでも料理だけの対価ではなく、サービスも含めての対価で、われわれはサービスというか、パーソナリティを売っているのかなと感じています。また来てみたくなる安心感やご自分の食事をする大事な時間をらせていただける場所でありたいですね。

～お忙しいところありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

あつかし かわらばん

住職法話を聴く会と 物故者供養ひらく

9月21日、桑折町・無能寺住職にお越しいただき、物故者供養が行なわれました。憩いの間での供養の念仏の後、利用者の皆さん一人ひとりにご焼香をしていただきました。その後、デイルームにおいて、秋の彼岸にちなんだお話をお聴きして、先人の霊をなぐさめた一日となりました。



恒例のもみじ狩り 半田山の秋を満喫

11月8日、もみじ狩りに行ってきました。利用者の皆さんは、桑折町からお借りしたバスとあつかし荘のワゴン車等に分乗し、目的の半田山をめざしました。途



中、桑折町のシンボルである旧伊達郡役所、商店街を通り、半田山自然公園をめざしました。公園に着いたあとは、管理棟の休憩所で、ちょうど見ごろとなった美しい紅葉を眺めながら、おやつの手づくり和菓子を食べ、楽しいひとときを過ごしました。真っ赤に色づいた木々をバックに写真撮影する方もいらっしゃいました。帰路は半田銀山自然公園を経由しあつかし荘に戻りました。

今回は、桑折町婦人会ボランティア4名の方にご参加をいただきました。ご協力、ありがとうございました。

鹿島神社例大祭 山車行列来園

10月27日(金)午後、あつかし荘に国見町鹿島神社例大祭の山車4台が来園しました。利用者の皆さんは、玄関前に勢ぞろいし太鼓や笛の音色とともに近づいてくる山車を出迎えました。

そして、かわいらしい稚児の舞、力強い太鼓を披露していただきました。なかには、若連さんによりいただいた花を片手に太鼓に合わせて体をはずませている利用者の姿がありました。大変楽しませていただきありがとうございました。



秋の味覚堪能 手づくり芋煮会ひらく

10月5日、芋煮会が行われました。グループ毎に分かれ、利用者の皆さんは包丁を手に持ち、材料を切り、調理に参加していただきました。しばらくして大きな鍋に美味しい芋煮汁ができあがり、みなさん満足のご様子でした。



ポイント介護

車いす

■車いすの種類

・自走式車いす

座って自分で操作するタイプです。もちろん介助者に押してもらうこともできます。腕の力や握力が弱い、半身にマヒがある場合などは、操作が困難な場合があります。

・介助式車いす

介助者に押してもらうことの多い方に適しています。重量も自走式に比べて軽くコンパクトなつくりになっています。

■材質について

・スチール製

アルミ製より安価なことから、丈夫さが長所です。ただし、重量があり、雨など濡れたまま放っておくと、さびる可能性があります。日常のお手入れをきちんとすることが、長持ちさせるコツです。

・アルミ製

スチール製より軽く、扱いや持ち運びに便利です。またさびにくいのもアルミの特性。価格はスチール製より割高になっています。

■車いす選びのポイント

使用者の一日の生活の流れにそって選ぶことが大切です

・屋内のみでの使用か、屋外でも使用するのか

・一日のある場面だけでの使用か、一日の生活を通しての使用か

・身体的条件や判断力・認知力の低下などの有無

これらのことをポイントに使いやすい車いすを選びましょう

干し柿づくりに挑戦 できるのが楽しみです



今年は裏の駐車場にある3本の柿が大豊作でした。11月8日、利用者の皆さんと職員とで、一つ一つ丁寧に皮をむき、ひもにつるしました。できるのが楽しみです。

あつかし掲示板

■ありがとうございます！

●学生さん等の実習

ニチイ学館、三幸福祉カレッジ、福島県立福島北高等学校

●ボランティアさん

【国見町】国見町婦人会、磐青の会、退公連伊達支部女性部、ニューモラルクラブ、早田捷、岩野和子、相原ミツエ、大槻トリ
【桑折町】桑折町婦人会

(以上、平成18年12月15日まで、敬称略・順不同)

■「介護サービス情報の公表」

11月1日、あつかし荘において「介護サービス情報の公表」に関する調査が行われました。この調査結果に基づく情報は、福島県社会福祉協議会のホームページにて閲覧できますのでご活用ください。

<http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

あつかし荘では、家庭的な雰囲気、あたたかさを大切に利用者の皆様への介護サービスの向上に努めていきたいと考えております。(菊池)

■東屋が見事に完成、引渡し！

11月28日、駐車場裏のあつかし公園に建設中だった東屋が完成し、引渡しの式が行われました。地元ボランティアの皆様、地理事長から感謝状を贈呈し、労をねぎらいました。



Interview part 2



松本美香子(25)
介護士

広報班では、あつかし荘の若手職員をインタビュー形式でご紹介いたします。
第2回は介護士の松本美香子さんです。

ー好きな食べ物は
カレー
ー嫌いな食べ物は
セロリ
ー休日の過ごし方は
友達と会う
ー今までで一番感動した映画は
グリーンマイル(泣けます)
ー趣味は
旅行、今はまっているのは旅行のパンフレット集めです
ー好きなタレントは
玉木 宏(カッコイイ)
ー血液型は
A型です
ーこの仕事をして良かったと思う時は
お年寄りの笑顔がみられた時です
(聞き手・高橋)

■あつかし荘サポーター大募集

あつかし荘では、利用者さんの生活をサポートしていただけるボランティアさん(あつかし荘サポーター)を募集しております。ご都合の良い時間帯に、ご都合の良い時間だけあつかし荘でお過ごしになりませんか。また、利用者さんに歌や踊りなどをご披露してくださる方、お話し相手になってくださる方も大歓迎です。年齢、経験等は問いません。お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

苦情相談 受け付けます

あなたやあなたのご家族などが、現在ご利用されている当事業所の福祉サービスについて苦情相談等がありましたら、ご遠慮なく「苦情受付担当者」もしくは「第三者委員」にお申し付けください。

【苦情受付担当者】

処遇部長 嶋原 誠
生活指導員 矢野 克己

【第三者委員】

弁護士 千葉 和彦さん
介護保険運営協議会委員 佐藤 豊治さん
行政相談員 高橋 節子さん

【苦情解決責任者】

施設長 小野 智哉

居介

あつかし荘指定
居宅介護支援事業所



佐藤奈穂子
主任介護支援専門員

みなさん、こんにちは。
あつかし荘指定居宅介護支援事業所の佐藤です。
居宅介護支援事業所は主に、
○介護保険の申請手続きの代行
○ケアプランの作成
○各種サービスの情報提供などを行うところです。
ご自宅でいろいろなサービスを利用しながら安心して生活できるようお手伝いしますので、介護に関する相談、困りごと等ございましたらお気軽にお電話ください。ご相談は無料です。

あつかし荘指定居宅介護支援事業所
電話 024-585-5610

あつかし荘ホームページご覧ください

ホームページ <http://www.shintatsu.jp>
メールアドレス atsukashi@shintatsu.jp

編集後記

◆第三者委員の佐藤さん、高橋さんお二人からはあらためて特養のあり方を、国見名鉄レストランの鈴木支配人さんからはお客様第一のプロフェッショナルの極意を教えてください、身の引き締まる思いがいたしました。
◆今年もたくさんの方々に支えられた一

年でした。お世話になりましたこと御礼申し上げます。来年も職員力を合わせていっそうのサービス向上をめざしますのでご指導よろしくお願いいたします。

2006年12月15日号

編集 ● あつかし荘広報班

(矢野克己、高橋睦子、松浦由巳子、菊池明央、嶋原 誠)

発行 ● 社会福祉法人信達福祉会 特別養護老人ホームあつかし荘
〒969-1642 福島県伊達郡桑折町大字北半田字一本木前5-2
TEL024-585-5610 FAX024-585-5611
URL <http://www.shintatsu.jp> E-mail: atsukashi@shintatsu.jp

あつかし
荘だより